

そよかぜだより

第70号
発行 2008.3.16
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ

http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
(お問い合わせ)
資源回収時のご連絡は
「ひばり園」へ

宇都宮誤認逮捕事件に地裁判決

県と国に賠償命令

04年に二つの強盗事件の犯人として逮捕された後に真犯人が判明して無罪が確定した吉田清さん(56)が、栃木県警と国に慰謝料を求めた訴訟の判決が2月28日に宇都宮地裁でありました。福島裁判長は「警察官が知的障害者の迎合的な特性を利用して、虚偽の自白調書を作成した」「検察官は、自白内容の裏付け捜査もせず起訴した」などと認定して、ほぼ原告側の主張に沿って国と県に慰謝料の支払いを命じる判決を言い渡しました。

「妥当性を欠き違法」と判断しました。

また、調書に添付された犯行現場の見取り図についても「吉田さんが自分で書いた」とする警察の主張に対して当事者尋問の結果、吉田さんには自力で書ける能力がないことが判明して、「警察官に無理やり手を持って書かされた」とする吉田さんの主張を認めました。

吉田さんの弁護にあたった副島弁護士は「警察は弱みにつけ込んで無実の人を犯罪者にする罪を犯した。そのことをこの判決は全面的に認めている」と語りました。栃木県警警務部長は「原告や関係者におわびする。今後、捜査管理を徹底し再発防止に万全を期す」とコメントしました。

この事件は、別の男が犯行を

自供したことで吉田さんの誤認逮捕が判明しましたが、もしその男が自供しなかったら、警察が作った虚偽の調書が真実とされたはず。重度の知的障害がある吉田さんには、無実を訴える力はありません。そのまま長期の服役をすることになったでしょう。

受刑者には知的障害者が少なくないといわれています。この事件をきっかけに弁護士会が、容疑者が知的障害者の場合には、取調べの全過程を録音、録画する必要性を訴えています。警視庁はまだ認めていません。

募金は全額積み立て金に

三月七日に行われたそよかぜの臨時総会で、平成十九年度の補正予算案が承認されました。その結果、現在そよかぜが進めている社会福祉法人設立と施設整備に備え、本部会計の繰越金の一部を募金(全額)と

合わせて「積立金」として別科目にして使途の明確化を図ることが決まりました。

この科目は、社会福祉法人設立資金積立特別会計となり、現在の金額は11,392,000円です。なお今後は、募金と寄付金については全額この会計に組み入れます。

ご協力ありがとうございました。 2月の募金 51,870円

(順不同) 19年4月~20年2月の合計 501,319円

近藤 智孝	様	加部 妙子	様	田中 明子	様
帯刀 進	様	井上 誠一	様	大野 元雄	様
とまと美容室	様	清水 賢	様	森田 勝	様
山下 暉枝	様	清水 知子	様	山田 隆章	様
濱野 岬	様	佐藤 佐夫	様	鰻沢 道子	様
エイ・アイ	様	宇津木 牧夫	様	小林 幸一	様
国本 昭治	様	袴田 実	様	平岡 知子	様
村野 理子	様	川崎 利男	様	橋本 亜紀子	様
山崎 六雄	様	竹内 照夫	様	下田 コウ	様
天満 喜代子	様	木村 宏	様	野崎 敬雄	様
榎本 正代	様	清水 キヨ子	様	長谷川 キヌ子	様
松岡 竹子	様	尾又 恭子	様	関谷 孝子	様
角野 克子	様	角野 進	様	関村 理	様
斉藤 忠	様	吉野 満里子	様	関村 英希	様
阿部 郁子	様	関谷 達夫	様	本間 正彦	様
ア-サンカワノ	様	関谷 和子	様	桜沢 喜作	様
永岡 智恵子	様	大野 素子	様	山影 幸子	様
小沢 達子	様	平野 嘉子	様	ア-バンバンディックス	様
田中 稔	様	匿名様(3,401円)			

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

2月は28,070tでした。金額は610,453円となりました。この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

4月は第3日曜日20日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ご連絡は、ひばり園へ
羽村市五ノ神2-6-7
042-578-0855

くれよん2月の売上げ
793,580円でした。

羽村市内の小中学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

心ゆさぶる知的障害者の作品集

ダンボールに描く絵、日記の訴え

「新日曜美術館」(NHK教育テレビ)から

毎週日曜日の朝九時から、NHKの教育テレビで、各地で開催されている美術展を紹介する「新日曜美術館」という番組があります。三月二日の放送ではアウトサイダーアートという副題でオールブリュット美術展というのが紹介されていました。出品されている作品はすべて障害者が作った作品ばかりでした。つまりここでは障害ある人のことを「アウトサイダー」としているのです。

そのことの是非はともかくとして、ふつう障害者の作品の紹介といえば、身体障害の人が口に絵筆をくわえて描く絵であるとか、不自由な両手の代わりに足で作る陶芸品などが、できればの良し悪しはべつにして、困難をのり越えて作る姿が感動的に伝えられる番組がよくあるものでした。しかしこの美術展の出品者はみんな知的障害ないしは発達

障害の人たちでした。しかもその作品が、あつと驚くような迫力のあるものばかりです。

私自身は美術に特別の興味があるわけはありませんが、それでも圧倒されてしまいました。とくに印象に残ったものを以下に紹介します。

小幡正雄さんは長い間施設で生活をしている中年の男性です。小幡さんの趣味は、給食室のとなりにあるダンボール置き場にこもってダンボールにマジックで絵をかくことでした。施設の職員たちはそのことをよく知っていました。が、別に悪いことをするわけでもないのに許していません。そのダンボール作品があると高価の目にとまり、作品のいままで描いてきた多くの作品はすべてリサイクル品として処分されてきました。作品がトラックに積まれて持ち去られるのを、小幡さんは当た

り前のように見ていたそうです。絵は人物の顔の表情ですが、見る者の心をゆさぶるような力があつて、もしこれが立派なキャンバスに描かれていたら、第一級の芸術家の作品といわれそうなものばかりです。

本田君はかなり強い自閉症です。自閉症の特徴として特定のものに対する極端なこだわりがあります。本田君のこだわりは電車です。わが国のあらゆる電車の形を記憶しています。五年前から大きな模造紙の片隅から長さ五センチほどの電車の細密画を一台づつ書き始めました。一日一台づつ描いていって大きな模造紙を埋め尽くすとまたもう一枚をのりで貼り付けて描きま

す。五年かかって畳一帖ほどの絵ができました。遠くから見ると全体はすばらしい模様になっていきますが、カメラが近づいてアップで写すと一つひとつの点が実は本物の電車を忠実に模写した絵であることが分かります。自閉症者でなければ決して出来ない作品です。見学した評論家が腕組みをしたまま「うーん」とう

なって「声もでない」と絶句していました。

澤田さんの土器がまたなんとも味のある造形でした。何万年か前の人類の祖先が、洞窟の壁に刻んだ動物の線画と同じような素朴な味わいで生き生きとしています。評論家は「縄文土器に引けを取らない素朴さだ、大昔の人間が持つていた感性が今もこの人の脳裏に鮮明に残っているにちがいない」といっていました。

他にもすばらしい作品はたくさんありましたが、一番強く心を動かされたのは戸来(へらい)さんの「日記」という作品です。戸来さんは重度の知的障害で岩手県の施設で三十年間生活してきました。入所の最初の日から一日も欠かさず日記を書いてきました。A4版の白い紙を一日一枚職員からもらい、その紙に日記を書きました。表に自分の名前と住所、生年月日、その日の天気を書きます。ただし天気は三十年間毎日「はれ」です。裏には、その日に自分がしたことを書きます。ただしこれも三十年間毎日同じ文句です。「きょうは、らじおた

いそうをしました。きょうは、みずをのみました。……」その日記を最初の日からベッドの脇の棚に積み重ねてきました。今では高さ四十センチほどになります。紙の端をそろえてないので一見するとゴミのようです。下の方の紙は黄色く変色していて時間の経過を示しています。

この日記の束を、古紙として処分したいと思つた職員がその束が訴えるあまりの迫力と重みに圧倒されて決断できずに知人に相談しました。知人の勧めで作品として展示することになって日の目を見ました。

毎日、毎日、版で押したような同じ日々の連続、「十年一日のごとし」とはまさにこのことです。そのような生活を当たり前のように耐えることができたのも、戸来さんが重度の知的障害なればこそです。これを芸術作品といつていいのかどうか分かりませんが、非人間的で、すさまじいほど単調な施設生活の実態をどんな言葉や文章よりもはるかに強く訴える作品になっています。作品というより戸来

さんの人生そのものが折り重なっているように見えます。来館者はみんなその日記の前で立ち止まり、しばらく動かないそうです。

全体を見終わつた評論家は次のような感想を述べていました。「いわゆる芸術家の作品と違って、この作品集には、自分の力で人を感動させてやろうとか、評価されたいとか、お金を儲けたいなどの野心や作為は、ひとかけらも感じない。自分のためにだけに描きたいという欲求に、これほど素直に忠実になれるとは……芸術の原点だ」

知的障害であれば、思考力や判断力が普通の人より劣っているのはやむを得ないことですが、芸術的な感性においてはすばらしい才能の持ち主がいます。ひばり園やおおぞらに通う人たちの中にもそのような人は必ずいるはずですが、ただこの美術展の作者達と同じように、そのことを人前に出すことなく隠れているのでしよう。すぐ近くにそのような人たちがいることを肝に銘じたいと思います。